

主 題：感謝の人生4

聖書箇所：ローマ人への手紙 12章1-2節

ローマ人への手紙12章をお開きください。1-2節「:1そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。」

パウロはここに、主イエス・キリストを信じるクリスチャンたちに対する奨励、または勧告とも言える「あなたがたのからだを神にささげること」、それを与えました。

A. からだをささげること

パウロはイエス・キリストを信じる一人ひとりに、救いに与ったあなたにできることは「あなたのからだを主にささげる」ことであると語り、そのように勧めました。もうすでに、パウロが私たちに教えてくれたように、まさにそれこそ、神によって救われたことを喜んでいる者たちの自然の行為です。神によって救われたことを喜んでいるなら、感謝しているのなら、私たちは当然、「主よ、どうぞ私のすべてをあなたにささげますから私をお用いください」と、そのような心からの願いを抱きます。まさに、これこそ主に対する正しい応答です。私たちのからだを主にささげるということは、主への感謝へのささげ物として相応しいものです。

しかし同時に、皆さんもよくご存じのように、私たちが形成しているこの肉体、からだの部分やささげることだけでは神はお喜びにならないということを見ました。神は私たちのからだだけでなく、私たちのすべてを求められるのです。なぜなら、私たちのすべては主のものだからです。「あなたのからだを感謝のささげ物としてささげなさい」と言ったパウロ。その説明をこの2節で、より掘り下げて私たちに教えてくれます。今日は、ごいっしょに2節を見て行きましょう。

B. 心をささげること

「:2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえるために、心の一新によって自分を変えなさい。」

パウロが二つ目に、クリスチャンたちに勧めたこと、命じたことは、からだだけでなく「あなたの心を神にささげなさい」ということでした。心をささげることです。ここには、二つの命令が出て来ます。一つは否定的命令であり、もう一つは肯定的な命令です。

1. 否定的命令 : この世と調子を合わせてはいけません

このようなことをしてはならないと、2節の初めに「この世と調子を合わせてはいけません。」とあります。パウロはいったい何を言わんとしたのでしょうか？この命令が意味することは何でしょうか？

1) その意味 : どういうことか

まず、私たちがそのことを考えるために、知るためには、一つひとつのことばを見る必要があります。

(1) 「この世」とは？

一般的に、天と地、また、この地上のこと、人類などを示す「コスモス」というギリシャ語は、ここでは用いられていません。ここでパウロが使ったことばは「この時代、流行、はやり」ということを表わすことばを使っています。ですから、少なくとも、パウロがここで言わんとしたことは「この時代、この世界の様々な流行、はやり」に対する警告であることは明らかです。

(2) 「調子を合わせてはいけない」とは？

・「調子を合わせる」とは：「ある模範と同じようにする」という意味。

何か模範があるならそれと同じようにする。また、何か同じ形に作るとか、何かに従ってとか、あるものに則って何かを形作っていく、あるものに順応する、また、同化する、そういう意味をもっています。また、別の辞書を見ると、特有の模範やいくつかの基準に沿って自分の行動、態度を形作ると、そのような意味があると言います。ですから、自らの行動を形作っていく、自分の生活のあるものに順応させていく、また、何かに従うことです。ですから、ペテロの手紙第一にこのことばが出てきます。実際にここで使われている「調子を合わせる」ということばは新約聖書の中に2回しか出て来ません。このローマ書とIペテロ1:14です。そこには「従順な子どもとなり、以前あなたがたが無知であったときのさまざまな欲望に従わず、」とあります。この「従わず」が同じことばです。「従わないようにと」と訳されています。少し見えて来ました。あるものに従っていいはならないということ。あるものに順応していいはならない、同化してはならないと言うのです。

・受け身：しかも、「調子を合わせる」ということばの動詞を見るとこれは受け身です。受動態で使わ

れています。つまり、パウロはここで「この世と調子を合わせる」という生き方は、あることの結果だと言うのです。もし、あなたが誤った選択をするなら、それが原因となってこのよう生き方があなたの身に起こるといことです。だから、私たちはどのような選択をするのかということに非常に気をつけなければいけないのです。どのように生きていくのかについて各人が注意を払うことが必要なのです。その責任があなたにも私にもあるのです。私たち信仰者にはこの責任があるとパウロは教えるのです。

さて、この最初のところでパウロが言わんとしたこと、実は、彼はこのようなことを命じたのです。イエスを信じるあなた、「キリスト者とは、罪の赦しによって『あなたの内なる人が新しくされた者』のこと、その新しい内なる人に相応しくないかつての行ない、生き方へと再び染まることがあってはならない」と。あなたの内が新しくされた、あなたは新しく生まれ変わったにも関わらず、救われる前のかつての生き方に倣って歩んではならないと命じたのです。それが最初の命令です。

・**現在形**：しかも、「調子を合わせてはいけません。」という動詞は現在形が使われています。そして、おもしろいことは、これは現在形の命令に否定をつけているのです。このような並び方をしたことには理由があるのです。パウロはローマにいるクリスチャンたちの中にこのような生き方をしている者がいることを知っていたからです。ですから、そのように現在形の命令に否定をつけることによって、「今、進行しているその行動を止めなさい」ということを言いたかったのです。

これはローマのクリスチャンたちだけでなく、私たちもそのようなことを経験します。確かに、私たちイエス・キリストによって生まれ変わった者たちは、神の前に喜ばれることをしたいと願っています。でも、現実には、それから外れた生き方もするのです。パウロが言っていることは「内なる人が新しくされていながら、それを正しい行動や生活に反映することをしないで、却って、偽った行動や生活をしている。新しくされたあなたは、当然、新しく生きていくべきなのに、そのように生きないで、かつての生き方をしている。生まれ変わったあなたがそれに相応しくない生き方をしている、そのようなことがあってはならない。」ということです。私たちは誘惑に対して弱い者だから、常に注意を払うことが必要だと、それがここでパウロが教えたことです。

**結論**：簡単に、この一つ目の命令をまとめると、この世の流行、この世のはやりというものに倣って生きてはならないということです。この世に同化されてはならないということです。リビングバイブルは面白く訳しています。「世間の人々の生活態度や習慣を真似てはいけません。」と。この世が奨励する考え方や生き方、価値観などに心奪われて、主を信じていない人々と同じように生きてはならないというのがパウロの命令です。

## 2) その理由

なぜ、そのような生き方をしてはいけないのでしょうか？世の中の人を見たときに、すばらしい人がたくさんいることは事実です。その生き様に共感を覚えるときは多くあります。その生き様から学びたいと思うこともたくさんあります。でも、パウロはそれを禁止するのです。なぜでしょう？三つの理由があります。

### (1) 「救われた目的に反すること」だから

イザヤ書 43 : 7 に「わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造し、これを形造り、これを造った。」とあります。信仰者の皆さん、あなたは神の栄光を現わす者として造り変えられたのです。元々、その目的で造られました。しかし、私たちが神に逆らい罪を犯したのです。しかし、あなたが救われることによって、本来の目的に沿って生きる者へと、生まれ変わったのです。神の栄光を現わすために、神のすばらしさを現わす者として、あなたも私も生まれ変わったのです。だから、神のみこころに反する生き方、かつて神に逆らい続けていたときの生き方は、栄光を現わす生き方ではなかったのです。だから、そのような生き方をしてはならないということです。イエスを信じるあなたは、I コリント 10 : 31 に教えるように「こういうわけで、あなたがたは、食べるにも、飲むにも、何をするにも、ただ神の栄光を現わすためにしなさい。」と、これがクリスチャンです。神の栄光のために生きていこうとするからです。

ですから、ヤコブの手紙 4 章 4 節に「貞操のない人たち。世を愛することは神に敵することであることがわからないのですか。世の友になりたいと思ったら、その人は自分を神の敵としているのです。」とあるように、この世を愛することは神に敵対することであるから、そのような生き方は止めなさいと、パウロは言うのです。

### (2) 「新しい生き方に反すること」だから

先ほども話したように、クリスチャンとは罪の赦しを得ることによって「内なる人が新しくされた」者です。この「内なる人」ということばは新約聖書の中に 3 回出て来ます。

a) 内なる人は「神の律法を喜んでい

によって救われた人は、神のみことばを愛する者たちだということです。神のみことばを愛し、そのみことばに従っていきたい、そのような思いを神が与えてくださったからです。

b) 内なる人は「日々、新たにされる」：Ⅱコリント4：16に「ですから、私たちは勇気を失いません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。」とある通りです。主の救いをいただいた者たちは、日々変えられて行くということです。別の言い方をすれば、救われた者たちというのはその信仰が成長するということです。だからパウロは、テサロニケのクリスチャンたちのその様子を聞いた時に、彼らの信仰が成長していることを聞き感謝しています。Ⅱテサロニケ1：3「兄弟たち。あなたがたのことに、私たちはいつも神に感謝しなければなりません。そうするのが当然なのです。なぜならあなたがたの信仰が目に見えて成長し、あなたがたすべての間で、ひとりひとりに相互の愛が増し加わっているからです。」「信仰が目に見えて成長し」ている、つまり、新しく生まれ変わった者たちはそれぞれの信仰が成長して行くのです。そのような願いをもっているし、そして、神のあわれみによって、信仰は成長していくのです。

c) 内なる人は「神によって強められる」：エペソ3：16に「どうか父が、その栄光の豊かさに従い、御霊により、力をもって、あなたがたの内なる人を強くしてくださいますように。」とあります。つまり、みことばが私たちに教えることは、生まれ変わった者たち、内なる人が新しくされた者たちの生き方は、これまでとは違う生き方になっていくということです。かつての私たちは罪によって支配され、罪の奴隷であったのです。その内なる人が生まれ変わって、今度は神に仕え、神の奴隷として生きていく者へと変わったのです。罪の奴隷であった者が、神の奴隷として生きる者へと生まれ変わったのです。だから、これまでと同じ生き方を私たちは為すことができないのです。

そこで、ヨハネはこのように表現します。Ⅰヨハネ3：9-10を見ると「だれでも神から生まれた者は、罪のうちを歩みません。」、継続して習慣的に罪のうちを生きないということです。「なぜなら、神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪のうちを歩むことができないのです。：10 そのことによって、神の子どもと悪魔の子どもとの区別がはっきりします。義を行なわない者はだれも、神から出た者ではありません。兄弟を愛さない者もそうです。」、すごいことが記されています。神の子どもと悪魔の子ども、その二種類しかいないのです。皆さんはどちらに属しています。神の子どもでなければ、あなたは悪魔の子どもです。あなたが悪魔の子どもでなければ、あなたは神の子どもです。どちらかです。

ヨハネが言わんとしていることは、それは何によって見分けることができるのか？その人の生き方なのです。悪魔の子どもだったときに、生まれながらに例外なくみなそうなのですが、罪の中を平気で歩んでいました。「罪を犯しても別にかまわない。自分が楽しければそれで良い。自分のやりたいことをしてだれにも迷惑をかけていないからそれで良い…」と。悪いことをしたという思いがあったとしても、「創造主なる神よ、私はあなたに罪を犯しました。」と、神の前に罪の悔い改めをすることもなかったのです。イエスを信じることによってその人生は生まれ変わったのです。その内なる人は新しくされたのです。新しく造り変えられたのです。

その結果、これまでと同じように罪を犯したときに、私たちはそこで「これは間違っている。神の前に間違っている。」と言って、その罪を神の前に告白しようとし、神に喜ばれる生き方をしたいと思い、そのような道を選択しようとし、何がその人の内に起こったのでしょうか？生まれ変わったのです。新しくされたのです。なぜなら、ヨハネは「神の種がその人のうちにとどまっているからです。」と言います。何のことでしょうか？神のいのちのことです。「霊的いのち」です。救われたときに聖霊によって与えられた新しいいのちのことです。それをいただいているから救われているのです。そして、救われているからその人の生き方は変わっていくのです。皆さんよくご存じのように、エペソ2：10でパウロはこのように言いました。「私たちは神の作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。」、神がイエス・キリストを信じるあなたに望んでいることは「良い行ないをする」ことです。でも、良い行ないをすることによって救われるのではありません。救われた者として、それに相応しく生きていきなさいということです。しかも感謝なことに、「神は、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。」と、神が助けてくれるということです。私たちを変えて、私たちが主に喜ばれる者へと成長して行くように主が助けてくださるのです。

ですから、私たちイエス・キリストを信じる者たち、神の恵みによって救われた私たち、私たちには新しい人生の目的と目標をいただきました。「この神の栄光のために生きる、神を喜ばせるために生きよう！」と、新しい目標を持って、新しい目的を持って生きる者へと生まれ変わったのです。でも、それでいながら、悲しい現実、私たちの内にまだ肉が存在するということです。イエスを信じたら完全

に罪から解放される、もしそうなら、私たちにとってどれ程幸いでしょう？罪から完全に縁を切ることができたらどんなに幸いか？でも、現実はその通りではありません。罪との戦いが続いています。罪に対して私たちが敗北することが毎日の生活で本当に起こっています。パウロもそのことを告白しました。すでに見たように、ローマ7：17-18に「ですから、それを行なっているのは、もはや私ではなく、私のうちに住みついている罪なのです。：18 私は、私のうち、すなわち、私の肉のうちに善が住んでいないのを知っています。私には善をしたいという願いがいつもあるのに、それを実行することがないからです。」とありました。内住する「肉」がかつての生き方へと私たちキリスト者を引き戻そうとしているのです。だから、気をつけなければいけない。あなたは生まれ変わった、新しくされた、新しい願いをもち、新しい目標をもって歩む者に変えられたと言うのです。しかし、この地上にあってあなたには戦いがある。そして、悲しいことに、罪に敗北することが多々ある。けれども感謝なことに、主はその罪を赦してくださいということなのです。

### (3) 「サタンを喜ばせること」だから

三つ目の理由として考えられることは、この世を愛する生き方は「サタンを喜ばせる生き方」だからです。Iヨハネ3：8には「罪のうちに歩む者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。」とあります。罪のうちに継続して歩み続ける者たち、その人たちは悪魔から出たと言います。罪の中を歩み続けるのは、サタンが父であることの証拠です。それは父の欲望を成し遂げることを望み、実践しているからです。先ほども見たように、クリスチャンは罪のうちに継続して習慣的に歩み続けることができないのです。でも、それを平気でやっている人たちは、その生き方があることを明らかにすると言うのです。それは彼らが悪魔の子どもであるということを証明していると言うのです。だから、私たちはそのような生き方から離れることが必要なのです。

サタンを喜ばせる生き方、私たちはもうそれは十分にやって来しました。私たちはそのような生き方から主によって救い出されて、新しく生まれ変わったのです。私たち信仰者が覚えておかなければいけないことは、神が罪をお喜びになることは絶対がないということです。どんな小さな罪でも、神はお喜びにならない。だから、罪を犯したら神の前に告白しようというのです。

**結論**：「この世の生き方、考え方、価値観などに心を奪われてはならない」

パウロが最初に、クリスチャンたちに対してこのように命じたのは、このようなことに心を奪われている人たちがいたからです。「この世と調子を合わせてはいけません。」という命令を与えたのは、そのような生き方をしている信仰者たちがいたからです。いなかったら、こんな命令をする必要はなかったのです。これはパウロの時代だけではなく、今も同じようにして生きている人たちがいるということです。というのは、多くの人たちがこの世の知恵や、この世の価値観に助けを求めているというのが現状ではないですか？

例えば、「子育て」という大きな責任が与えられたときどうしますか？本屋さんには「子育て」に関する本が山ほど並んでいます。かつて、私もどんなことが書いてあるのだろうと思って立ち読みをしたことがあります。私たち信仰者が考えなければいけないことは、神が託して下さった子どもを育てるに当たって、どうしてこの世の中の知恵が必要なのかということです。なぜなら、一番大きな問題はこの幼子の罪です。子どもは生まれながらに罪をもって生を受けています。だから、私たちが教えなければいけないことは「それは間違っている」ということです。正しいことを教えて行かなければいけないのです。どんなに立派な人であっても、主イエス・キリストを知らないなら、罪に問題があるとは教えません。私たちはなぜ、その人たちの知恵を得ようとするのでしょうか？

神がもう私たちに知恵を与えて下さったのです。それでいながら、信仰者はこの世に助けを求めようとするのです。皆さん、問題点にお気づきになりませんか？「私は世を愛していない」と言われるかもしれません。でも、問題は神だけで満足しているかどうかです。

教育においてはどうですか？ソロモンはこう言いました。「主を恐れることは知識の初めである。」と。箴言の中に11回も記されています。なぜ、ソロモンはこんなことを言ったのでしょうか？これこそ、神の前に最も価値のある、また、神が親や保護者に託した最も重要な責任だからです。私たちは「主を恐れること」を教えなければいけないのです。それはどういう意味か？彼らがイエス・キリストを信じ、このイエス・キリストを信頼し、イエス・キリストを崇拜し、イエス・キリストに仕え、イエス・キリストに従っていくようにということです。それなのに、どうしてこのことを後回しにするのでしょうか？一番大切なこのことを教えずに、その以外の世の中の知恵をどれだけ教えたとしても、果たして、それを主が喜んでいらっしゃるのかどうかです。

多くの人々は成功を求めます。何とか成功したいと。そのような本がたくさんあります。「どうすれば成功を治めることができるか」と。でも、信仰者の皆さん、考えてください。この世で成功を収めるた

めに信仰を犠牲にする人は永遠の失敗者です。世の中でどれ程成功を取めたとしても、神の目には全く虚しいものです。私たち信仰者はそのことに気付かなければいけないのです。何が価値あるのか、何が永遠に価値あるものなのか、そのことを覚えてそれを選択することです。私たちはいつの間にか、この世の人々のその流行に倣って、言葉使いも変わって行きます。そんなことはありませんか？また、この世の服装のその流行に倣って、一番進んだ洋服を身に着けなければ…と思いませんか？

今、パウロが警告したことを知らず知らずのうちに私たちは選択してしまっています。この世のエンターテイメント、テレビ、映画、音楽、そして、本や雑誌など、これらすべてのものがあなたに教えることは「神に逆らう生き方」です。神の栄光を現わす生き方を教えようとはしません、神に背く生き方を教えるのです。しかも、それをオブラートに包んで非常に美しく見せるのです。目的は一つです。そのような生き方に皆さんの関心が引かれるようにするのです。パウロは言います。「この世と調子を合わせてはいけない」と。「気をつけなさい。あなたの内に肉が存在している。その肉はかつての生き方にあなたを引っ張って行こうとするし、あなたの周りにある様々なものはそれを助けようとするから」です。だから、必要なことは、私たちの心を常に神の前に明け渡すことです。この世と妥協してはいけない。この世に染まってはいけない。あなたは新しくされたのだ。そのような目的のために主はご自分のいのちを捨ててあなたをお救いになったのではないのです。

「このようなことをしてはならない」という命令を与えたパウロは、今度は肯定的な命令に変わって行きます。「このようなことをしなければいけない」と言うのです。

## 2. 肯定的命令 : 心の一新によって自分を変えなさい。

- ・「心の一新」＝「心」とは「心構え、考え方、思考力」のことです。それを「一新」、新しくしなさいと言います。そうすることによって「自分を変えなさい」と言います。
- ・「自分を変えなさい」＝変容させる、姿を変えるという意味です。

そして、この「自分を変えなさい」というのが、この2節の後半の肯定的命令です。このことばは、新約聖書の中に4回しか出て来ません。その中の2回は、ある同じ出来事を指しています。主イエス・キリストの山上の変貌です。覚えていますか？イエスがペテロとヤコブとヨハネを連れて高い山に上って行かれた。そこで、主イエス・キリストのみからだが変わられたという出来事です。マタイ17:2「そして彼らの目の前で、御姿が変わり、御顔は太陽のように輝き、御衣は光のように白くなった。」、何が起こったのでしょうか？イエスはこのときに全く別の人になったのでしょうか？そうではありません。主イエス・キリストがいったいだれなのか？イエスとはいったいだれなのか？イエス・キリストの本質が外側に明確に示されたのです。「御顔は太陽のように輝き、御衣は光のように白くなった。」とあります。イエスが神であることが外側に明らかにされたのです。神でなかったのではありません、そのときに神になったのでもありません。神であられた方がご自分が神であることをそのように外側に明らかにされたということです。

ですから、パウロはここで、「新しくされた人クリスチャンは、その新しくされた内なる人に相応しい行ない、生き方をする者へと益々変えられて行きなさい」と、その命令を与えているのです。あなたは新しくされたのです。だから、それに相応しい生き方をする者、それに相応しい行ないをする者へと変えられて行きなさいと、そのことをここでパウロは命じているのです。世に染まってはいけない、却って、あなたは救われた者として、益々それに相応しい行ない、生き方をして行きなさいと言うのです。この命令も同じように現在形です。継続して為されていくものだからです。そして、これも受動態、受け身です。なぜなら、この働きは確かに、聖霊なる神の働きだからです。よく皆さんがご存じの、Ⅱコリント3:18には「私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」とあります。今、私たちがローマ12:2で見ている「自分を変えなさい」と同じことばが、ここに出て来ています。「主と同じかたちに姿を変えられて行きます。」とあります。だれが変えてくださるのですか？「これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」と言います。

ですから、パウロは確かに、Ⅱコリントの中で、聖霊なる神によって私たちは変えられて行くということを言いました。ピリピ3:21でもパウロはこのように言っています。「キリストは、万物をご自身に従わせることのできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださるのです。」と。神が変えてくださるのです。あなたを変えていってくださるのです。確かに、ローマ書12章2節にあるように「自分を変えなさい」と受け身であることは、神があなたを変えていってくださる、神が信仰者であるあなたを変えていってくださるということなのです。

でも同時に、私たち一人ひとりの信仰者に何の責任もないのかというと、そうではありません。私たちがもうすでに見たように、この世と調子を合わせないために、却って、私たちの心を新しくしていく

とが必要なのです。この箇所の日本語の聖書訳を記します。

**口語訳** あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造り変えられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである。

**新共同訳** あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。

**文語訳** 又この世に<sup>なら</sup>効ふな、神の御意の善にして悦ぶべく、かつ全きことを<sup>わきま</sup>辨へ知らんために、心を更へて新にせよ。

つまり、虚しいことに心を向けてはいけないと言うのです。心を正しいことに向けていくのです。なぜなら、心が変わることによって、心が神に喜ばれる者に変えられていくことによって、私たちの行動までも変えられていくからです。考えることが悪いと益々悪の深みにはまっていくということを、私たちはローマ書1章で見て来ました(1:18-32)。私たちの考えが悪いと、私たちの行動がどんどん悪くなって行くのです。では逆に、私たちの考えが正しければ、間違いなく、私たちの行動に反映されていきます。「虚しいものに心を向けるな」と言うのです。あなたの信仰の妨げとなるようなものに心を向けてはならないと言うのです。この世はあらゆる誘惑をもってあなたの心を虜にしようと働いています。外側からあなたの心に働きかけてきます。誘惑を与えてきます。だから、パウロは「日々、あなたの心を新たにするように」と命じました。あなたの心が日々新たにされることによって、そういった誘惑に勝利するだけでなく、正しい行動をもってあなたは主を証することになるからです。

では、どのようにして私たちは、そのような歩みを為していくことができるのでしょうか？聖書に立ち返ることです。信仰者の皆さん、私たちは、しっかりと神のみことばを学び、そのみことばを蓄え、そのみことばを実践することです。この世の知恵ではなく、神の知恵に基づいて生きていくことです。そのことが必要なのです。パウロはテモテに対してこのように言っています。Ⅱテモテ3:15「また、幼いころから聖書に親しんで来たことを知っているからです。聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができるのです。」と、聖書があなたに知恵を与えるというのです。なぜなら、聖書はあなたに神のみこころを示してくれるからです。どのようにして生きていけば良いのかを教えてくれるからです。あなたが主に喜ばれる者と変えられていくために必要なものを、みことばが与えてくれるのです。

だから、ダビデの証を聞いてください。詩篇119:11、皆さんがよくご存じの箇所です。「あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことばを心にたくわえました。」と。そのダビデがこう言います。主に喜ばれることを行なうためにはどうしたらいいのか？詩篇40:8に「わが神。私はみこころを行なうことを喜びとします。あなたのおしえは私の心のうちにあります。」とあります。どちらも同じことです。神の前に罪を犯さないためにどうするのか？神のことばを蓄えたと言うのです。では、神に喜ばれることをするためにはどうするのか？神のことばを心に蓄えると言うのです。そのようにしてダビデも歩んだのです。そして、パウロも私たちに教えてくれるのです。私たちが神の前に正しく歩んでいこうとするならば、私たちのうちにしっかりとみことばを蓄えていなければいけないのです。

いいですか、皆さん！これが神の知恵なのです。このみことばが私たちに与えてくれるのは、人間の知恵ではないのです。虚しい知恵ではないのです。価値のない知恵ではないのです。創造主なる神が私たちに必要だとして与えてくださった神の知恵なのです。私たちはこのみことばに立つのです。私たちはこの知恵をいただきながら生きるのです。それが、主があなたや私に望んでおられる歩みなのです。

今日私たちは、この2節のところから二つの命令を見て来ました。否定的な命令と肯定的な命令でした。「新しく生まれ変わった者に相応しくない生き方をしてはならない」とパウロは言いました。「救われたあなたが、救われる前の生き方をしてはならない。それはあなたに相応しくない。それは神の前に喜ばれない。却って、新しく生まれ変わった者に相応しい生き方をしなさい」と。そのカギは、神のみことばを愛し、そのみことばを学び、そのみことばを私たちのうちに蓄え、そして、主の助けをいただきながらそのみことばに従い、その教えを実践していくことです。そうして、私たちの心を神のみことばで満たすことによって、私たちの心を神に支配していただくことによって、私たちは新しく生まれ変わったこと、また、新しく生まれ変わらせてくださった主を、この世に証していく者として生きるのです。そのために生まれたのでしょうか。そのために救われたのでしょうか。神の栄光を現わすために…。では、それをするためには、私たちの心を主に明け渡して、私たちの心が常にこのみことばに満たされて、神の知恵をいただきながら生きていくことです。それがなければ、そのような歩みは不可能です。

なぜ、あなたの心を主にささげて、みことばをもってあなたの心を新しくして、そして、主に従って主の栄光を現わしていくのでしょうか？救われたことを感謝しているからです。救われていることを感謝している者は、自らのすべてを主にゆだねて、「主よ、どうぞ、私のすべてをお使いください。」と言います。主の救いを感謝している者たちは、「神さま、私はあなたの前に罪を犯したくないから、どうぞ私の心をあなたのみことばでいつも満たしてください。この世に私が引っ張られていくことがあります。この世の生き方を見て誘惑を感じる時があります。毎日の生活の中で、そのようなことを経験しています。だから、神さま、私はあなたの助けが要ります。どうぞ、私の心を支配し続けてください。」と言います。

神に感謝した人たちの生き方は自分のすべてをささげようとし、自分のからだも自分の心も。そして、「主よ、どうぞ、あなたのみこころのままに私を使ってください。」と、そのような祈りをもって歩んで行く人たちです。パウロから教えられなくても、救われたあなたは、罪から離れたいということ願って生きてきたはず。主に喜ばれることをしたいと願って生きてきたはず。それを続けてください。パウロは私たちに教えてくれました。「しっかりとあなたの心を主にゆだねること。あなたの心がいつもみことばに満たされていく、そのときにあなたは、この主に用いていただくことになる。」と。

アメリカ、シカゴのムーディー教会の牧師であったウォーレン・ウァズビー先生はこのように言います。「もし、この世があなたの心を支配するなら、もし、この世があなたの考えを支配するなら、あなたは調子を合わせた者である。しかし、もし、神があなたの考えを支配するなら、あなたは変えられた者である。」と。そのように歩みたいものです。失敗はします。でも、すぐ主に立ち返って、みことばに立って、そして、このみことばを私たちの心に蓄えながら、「主よ、感謝します。こんな者を救ってください、こんな者を生かしてください、こんな者を用いてくださるあなたの恵みに。主よ、どうぞ今日私を使ってください。私のからだも私の心も私の感謝としてあなたにささげます。あなたのために、あなたのためだけに、今日私を使ってください。」と、そのように決心し、そのように主に求めながら一日を歩むのです。

そのように歩んでくださっている皆さん、あなたを神が豊かに祝してくださるように。今日、そのような歩みを始めようとする人、主があなたを豊かに祝してくださるように。信仰者の皆さん、主の為さったみわざを覚えてください。そして、その主にどのようにあなたが答えて行くのか？主のみこころはこのように示してくださった。そのような歩みをもってあなたの感謝を現わしてください。そして、あなたの生き様をもって、私たちの偉大な神が、誉め称えられるように！そのことを願いながら、この一週間を歩みましょう。